

科目名	作業療法評価学（発達障害）	担当教員	佐藤 拓也 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	---------------	------	---------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR22E	①、②					

科目概要	発達期に生じた障害を有する小児にとって課題となるADL、遊び、学業（就労）について作業療法が支援をする上では、これらの基盤となる運動機能、感覚－知覚－認知機能、心理・社会機能といった作業遂行要素への介入が必要となる。作業遂行要素は相互に密接に関係しながら発達しており、対象児にとって必要な支援の方法を探るため、これらの発達過程について理解を深め、幅広い視野をもって、対象児の障害構造を評価する視点を養う。
学習目標	① 発達障害領域における作業療法評価の概要を理解する。 ② 発達障害領域での主な作業遂行要素、および総合的な評価の視点を理解する。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	評価の概要	発達障害領域の作業療法、評価～治療の概要	発達障害領域における作業療法、および評価～治療の概要について理解する。	
2	評価の実際	評価～治療の実際 1	評価計画、評価、問題点抽出、目標設定、プログラム立案、再評価の各ステップでの留意点について理解する。	
3	評価の実際	評価～治療の実際 2	評価過程で用いられる検査の種類、選択について理解する。	
4	評価の実際	姿勢・移動運動発達の評価 1	粗大運動（姿勢・移動）の正常発達過程に則った評価の視点を理解する。	
5	評価の実際	姿勢・移動運動発達の評価 2	姿勢・移動運動の正常発達からの逸脱について、疾患の影響を考慮した評価の視点を理解する。	
6	評価の実際	上肢、視覚、認知機能の発達評価	上肢、視覚、認知機能について、粗大運動発達との関連から評価の視点を理解する。	
7	評価の実際	感覚－知覚機能、心理・社会機能の発達評価	感覚－知覚機能、心理・社会機能について、正常発達過程から評価の視点を理解する。	
8	評価の実際	遊び、ADL、学業（就労）の発達評価	遊び、ADL、学業、職業選択について、正常発達過程から評価の視点を理解する。	
評価方法		筆記試験(100%)		
課題に対するフィードバック		講義終了後に質問を受け、回答する。		
教科図書		長崎重信・監修「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学（第3版）」メジカルビュー社		
参考図書		前川喜平・著『小児の神経と発達の診かた』新興医学出版社、2003年 大城昌平・編『リハビリテーションのための人間発達学 第2版』メディカルプレス、2014年 奈良勲、鎌倉矩子・監『標準理学療法学作業療法学 人間発達学』医学書院、2010年 など		
学習の準備		1.（予習）次回のテキスト等の通読と用語の確認をする（90分）。 2.（復習）講義内容の理解／不十分である箇所を明確にし、不十分な箇所は担当教員に質問できるよう準備する（90分）。		

オフィスアワー	火曜日～金曜日 13時～17時 随時
担当教員欄に※印を 附した教員の 実務経 験	